

がん検診 何歳まで受ける?

老いと
ともに

厚生労働省が指針を決めて市区町村が実施する「がん検診」の対象には年齢の上限がない。しかし、検査には高齢者特有のリスクもあり、利益より不利益が上回るという指摘もある。海外では上限を設ける国もある。高齢者のがん検診をどう考えたらいいのだろう。

高齢ほどリスク高く

さいたま市南区の病院「たどりのリスクを考慮しなくてはならない。病院の多田智也理事長は、「90歳で大丈夫だともひろ胃腸科・肛門科」には、大腸がん検診で「精密検査が必要」と言われて来る80歳以上の高齢者が時々いる。厚労省の指針による大腸がん検診は、便を調べる便潜血検査と、「要精検」と判定された人を対象にした大腸内視鏡検査の2段階。大腸のX線検査をすることもある。

胃がん検診では、内視鏡検診の対象は40歳以上で上限はない。ただ、高齢になれば内視鏡で腸に穴が開くな

・理事長は、「90歳で大丈夫だともいるが、個人差は大いがある。検査をしても大丈夫だうかと思う人はいる」という。

す。CTで大腸を調べることも可能で、リスクを説明しうえで本人に決めてもらう

く、検査をしても大丈夫だ
うかと思う人はいる」と
す。CTで大腸を調べるこ
も可能で、リスクを説明し
うえで本人に決めてもらう
いう。

がん検診の対象年齢		20歳	30	40	50	60	70	80
子宮頸 がん		細胞診など						
乳がん		X線検査						
日本		大腸がん		便潜血検査				
肺がん		X線検査など						
胃がん		X線か内視鏡 検査						
X線検査は40歳以上で実施可								
子宮頸 がん		25～64歳						
英國		乳がん		50～70				
大腸がん		60～74						

A black and white photograph capturing a moment of medical intervention or care. A person with short hair, wearing a light-colored shirt, is leaning over another individual who is lying down. The person on the bed has their eyes closed and appears to be in a state of distress or unconsciousness. Several other individuals are visible in the background and foreground, some holding what look like medical instruments or supplies. The scene is set indoors, likely in a hospital or clinic environment.

フレイルチェックの試みで、ふくらはぎの周囲を測って筋肉量を推定する=千葉県柏市、飯島勝矢さん提供

がん検診以外に、生活習慣病の早期発見のために血圧や血糖、肝機能などをチェックする健診が実施されている。40歳以上75歳未満の人は国民健康保険など公的医療保険による特定健診（いわゆるメタボ健診）を、75歳以上の人には後期高齢者医療制度による健診を年1回受けられる。

構の飯島勝矢・准教授（老年医学）は「高齢者でも定期的に健診を受ける必要はあるが、栄養や食べる機能、身体機能、社会参加などを維持する工夫も必要だ」と語す。高齢になるとほど生活習慣病の予防以上に体力や筋肉を維持する必要があるという。

日本老年医学会は、筋力や活動性が低下して介護が必要

まず体力・筋力維持を

高齢者の場合、がんができる
ても、症状が出る前に寿命を
まつとうできることがある。
しかし検診でがんが見つかっ
て、がん検診を受けるメリットは?
た場合、手術や治療を受ける
ことになり、後遺症や副作用
が出れば、結果として生活の
質を損なうことがある。

大阪大の祖父江友孝教授
(環境医学)は「がん検診に
も利益と不利益があり、高齢
者は不利益が利益を上回るこ
ともしばしばある」と指摘す
る。検診でがんが疑われて
も、精密検査でがんではない
と判断することもある。この
場合、結果が出るまでの心理
的なストレスや結果として必
要なかつた検査を受けること
は「不利益」ともいえる。祖

```

graph TD
    Start[要精検] --> NoAbnormal[異常なし]
    Start --> Cancer[がん]
    NoAbnormal --> OneYear[1年後の検診]
    Cancer --> Treatment[治療]
    DetailedExam[精密検査  
(内視鏡検査・X線検査)] --- Risk[検査にリスクも...]
  
```

診のあり方に関する検討会」で年齢の上限問題が議論されたことはあるが、具体的な結論は出でていない。ただ、自治体レベルでは独自の試みもある。大阪府では、はがきなどで個別に重点受診勧奨をする対象を、胃・大腸・肺がんは60～69歳、子宮頸がんは25～44歳、乳がんは50～69歳とした。国の指針に基づくすべての対象者を網羅する検診の提供体制がないため、がんの罹患率などを考えて、受診勧奨の対象を決めたという。

になる前の虚弱状態を「フレイル」と呼び、生活機能を維持させることの重要性を訴える。政府が5月にまとめた「一億総活躍社会」に向けた計画にもフレイルの予防や対策が盛り込まれた。飯島さんらのグループでは千葉県柏市などで筋肉などを調べるフレイルチェックを試験的に実施している。（浅井文和、瀬川茂子）

の渋谷大助所長は「水分を十分取らない人や便秘が増える高齢者はリスクを考慮すべきだ」と指摘する。日本消化器がん検診学会による2013年の調査報告では、X線による胃がん検診の受診者381万人余りのうち、腸閉塞を起こした人が10人、腸管に穴があいた人が6人いた。6人のうち5人は60歳以上。バリウムが排泄されず、硬くなつて腸の壁にとどまつたためとみられる。がん検診を実施している大坂がん循環器病予防センター（大阪市）の池田城賀恵子調査室長は、高齢者から「検診はいつまで受けたらいいですか」と聞かれると「検査をつらうと感じない元気な間は、お越し下さい」と答える。年齢や過去の病歴、歩き方、表情をみてリスクがありそうな人に、「検診を受けて、かえって体調が悪くなつては検診の意味がないですよ」と説明する。高齢者の場合、検査に不安を感じているようであれば、受診は勧めないという。

父江さんは「70歳を超えた
ら、がん検診を受けないとい
う選択もある」と話す。
　海外では上限を設けている
国もある。「国民保健サービ
ス(NHS)」のもと医療費の
多くを税金でまかなう英国で
は、大腸がんは74歳まで、乳
がんは70歳までが対象だ。